

日仏都市会議 2022

小屋組 – フランス・ベトナム・日本の歴史遺産の修理 / 再建をめぐって

Table Ronde dans le cadre du Congrès franco-japonais sur les Villes 2022
Charpente en bois - restauration et reconstruction en France, au Vietnam et au Japon

2019年4月と10月に相次いで発生したパリのノートルダム寺院と沖縄の首里城の火災は、世界遺産に関わる場所が被災したということで世界を震撼させ、木造の伝統について大きな議論を呼びました。日本のような長い木造建築の歴史をもつ国は当然として、組積造が主体であるヨーロッパにおいても室内や小屋組を木造とする点で古い技術とデザインを誇っています。

今回、木造・木質に関わる国際会議 WOODRISE が開催されるのにもない、歴史的建造物の修復や再建をめぐって日本とフランス、そしてアジアの中で高度の木造文化をもつベトナムから専門家を招き、アジアと欧州を比較する場を設けました。外からだけではわからない屋根=小屋組に注目し、その隠されたメカニズムと保存修復に必要な智慧をめぐって活発な議論を繰り広げます。パリ、那覇、奈良、フエと世界遺産の向かうべき方向についても新たな知見を読み取って頂ければ幸いです。

主催：日仏工業技術会、日本建築文化保存協会、在日フランス大使館科学技術部、アンスティチュ・フランセ関西

協力：フランス木材技術研究所、フランス国立木材技術産業大学、工学院大学、追手門学院大学、東京理科大学、公益財団法人日仏会館

後援：林野庁、日本建築学会、HEAD 研究会

協賛：(株) 竹中工務店、(株) 総合資格

日程：2022年5月28日(土曜日) 13:30~17:50
開場 13:00

会場：アンスティチュ・フランセ関西 稲畑ホール
(参加定員 50 名*) 京都市左京区吉田泉殿町 8
(対面及びオンラインによるハイブリッド形式、一般公開)

参加費：一般 2,000 円、学生 1,000 円、資料代含む
オンライン参加は無料、日仏同時通訳あり

申込：https://forms.gle/FYhn9DAHCFEFTXpt7

* 本会議の開催にあたり、新型コロナウイルス感染症対策として、当日の来場者全員に対する検温、アルコール消毒、マスク着用の義務づけ等を徹底し、さらに来場人数の約6割制限を遵守します。

プログラム

13:30-13:45

開会の挨拶

岩田忠久（日仏工業技術会会長、東京大学大学院教授）

ジュール・イルマン（駐京都フランス総領事）

13:45-14:00

木造文化財のリスクマネジメントについて／北河大次郎（文化庁文化財調査官）

14:00-15:30

<第1セッション：木造遺産の火災被害と復旧>

パリ・ノートルダム大聖堂の木造屋根の復旧について／フレデリック・エポー（CNRS 研究員、中世考古学者）

首里城の火災被害について／長谷見雄二（早稲田大学名誉教授）

ディスカッション／コメンテーター：後藤治（工学院大学理事長）

（休憩 15:30-15:45）

15:45-17:15

<第2セッション：伝統木造建築の保存修理>

唐招提寺の木構造修理について／佐分利和宏（竹中工務店）

ベトナム・フエ王宮の木造修復について／レ・ヴィン・アン（デュイ・タン大学専任講師、フエ王宮保存修復担当）

ディスカッション／コメンテーター：ブノワ・ジャケ（フランス国立極東学院准教授）

17:15-17:35

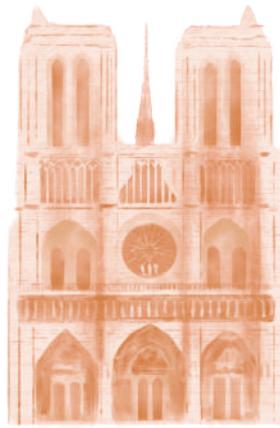
KI-TIME ワークショップ開催レポート

17:35-17:50

総括／青島啓太（追手門学院大学准教授）

閉会の辞／三宅理一（日本建築文化保存協会理事、東京理科大学客員教授）

司会進行：岡崎瑠美（芝浦工業大学准教授）



ノートルダム大聖堂

フランス、パリのシテ島にあるゴシック建築を代表するカトリックの大聖堂。19世紀後半に建築家ヴィオレ＝ル＝デュクにより大々的な修復が行われた。ユネスコ世界遺産登録。2019年4月に火災により尖塔を含む木造部分が焼失。

講師プロフィール



北河大次郎 文化庁文化財調査官

東京大学土木工学科卒業、エコール・ナショナル・デ・ボンゼンジョセフ修了後、文化庁にて文化財行政に携わる。現在は近現代建造物を担当。博士（国土整備・都市計画）。主な著書として『近代都市パリの誕生』（河出書房新社）。



フレデリック・エポー CNRS 研究員、中世考古学者

国立科学研究センター（CNRS）研究員、トゥール大学附属。博士（考古学）。ロマネスクとゴシックの架構の歴史や、大工工事における木材、中世の林業と森林、また、民族考古学的観点からカロリング朝の木造建築を中心に研究。



長谷見雄二 早稲田大学名誉教授

早稲田大学理工学部建築学科卒業、同大学院理工学研究科修了。博士（工学）。建設省建築研究所研究員を経て、アメリカ国立標準技術研究所客員研究員、建設省建築研究所主任研究員、建設省建築研究所防火研究室長歴任。1997-2020年早稲田大学理工学術院創造理工学部教授。



後藤治 工学院大学理事長

東京大学工学部建築学科卒業後、同大学院工学系研究科建築学専攻修了。博士（工学）。文化庁文化財保護部建造物課文化財調査官から工学院大学工学部・建築学部教授を経て、工学院大学理事長を務める。



佐分利和宏 竹中工務店大阪本店設計部構造部門部長

神戸大学工学部環境計画学科卒業、同大学院工学研究科環境計画学専攻修了。京都大学大学院博士課程修了。1994年株式会社竹中工務店入社、現在は竹中工務店大阪本店設計部構造部門部長、構造を担当。博士（工学）。



レ・ヴィン・アン フエ王宮保存修復担当

フエ美術大学卒業、早稲田大学理工学術院にて博士号（建築）を取得。日本ベトナム連携戦略研究所所長。東アジア諸国（中国、日本、韓国、ベトナム）との地理的・文化的関係におけるベトナムの歴史的都市と建築遺産の研究を行う。



ブノワ・ジャケ フランス国立極東学院准教授

パリ・ラ・ヴィレット修士課程、EHESS Paris、DEA、京都大学博士号取得（工学）、パリ第8大学博士課程修了（建築史）。現在、日本における木造建築の修復と再生を専門としている。パリ・ラ・ヴィレット国立高等建築学校講師、エコール・スペシャル建築学校講師。



青島啓太 追手門学院大学准教授

芝浦工業大学建築工学科卒業、同大学院建設工学専攻修了、パリ・ベルヴィル建築大学修了（DEA）、博士（工学）。メケレ大学（エチオピア）講師、芝浦工業大学特任講師を経て、2021年より追手門学院大学准教授、2016年より株式会社 bask design 共同主宰。



岡崎瑠美 芝浦工業大学准教授

慶應義塾大学環境情報学部卒業、同大学院政策・メディア研究科修了、博士（学術）。フランス国立科学研究所訪問研究員、坂茂建築設計所員、芝浦工業大学建築学部建築学科特任講師を経て、現在同大学准教授。



首里城

沖縄県那覇市にあり、かつて海外貿易の拠点であった那覇港を見下ろす丘陵地にあったグスク（御城）の城址。沖縄戦で正殿等の建造物は焼失したが、城址が「琉球王国のグスク（城）及び関連遺産群」としてユネスコ世界遺産登録。2019年10月の火災により1992年再建の正殿含む建物9棟が焼失。



唐招提寺

奈良県奈良市五条町にある寺院。南都六宗の一つである律宗の総本山。本尊は盧舎那仏、創立した僧鑑真が晩年を過ごした寺であり、奈良時代建立の金堂、講堂を始め多くの文化財を有する。ユネスコ世界遺産登録。



フエ王宮

ベトナム中部の都市フエの市街地と郊外に19世紀初期から阮朝時代の皇宮、皇帝廟、仏寺および遺跡が多数残されており、その一部がフエの建造物群としてユネスコ世界遺産登録。